



社会学類
への招待

A Guide to College of Social Sciences, University of Tsukuba



ようこそ社会学類へ

われわれが生活している社会を理解し、ひいては社会の改善に資するようなアイデアを発見するための第一歩は、社会学、法学、政治学、経済学といった社会科学の専門分野の基礎的な考え方に触れることです。多様なものの見方に触れることで、以前は気がつかなかった問題に気がつくきっかけが生まれるかもしれません。社会学、法学、政治学、経済学において長年蓄積されてきた分析手法を学ぶことで、問題解決のための糸口を試行錯誤するための土台を作り上げることができるでしょう。多くの場合、社会経済生活のいくつかの側面が相互に関連しています。例えば、経済発展、少子化およびグローバル化は相互に関連しています。この相互依存関係を理解するための助けになるのが、社会科学の専門的知見です。社会学類では、まさにこのような素養を身に着けるためのカリキュラムが用意されています。

大学生活

一人で試行錯誤していると堂々巡りになることがあります。そんなとき友人たちと、ともに学び議論することで、問題解決のための糸口が見つかるかもしれません。ディベートとは違い、どちらが議論に勝ったのかとかいうことは全く重要ではありません。重要なのは、試行錯誤すること自体からたくさんのことが学べるということです。勉強以外の分野での交流も充実した大学生活を送る上で重要かもしれません。

市民として

英語のことわざ、No man is an island、を知っているでしょうか。人は互いにつながりがあり、相互に依存している、ということを意味することわざです。ところが、新型コロナウイルス感染の脅威のため、人と人とのつながり方が変容しつつあります。このような時代には、われわれ一人一人の世界観や幸福についての考え方が異なりうるということを常に念頭におき、自分を他者の境遇において考えるよう心がけることが、いつにもまして重要となるでしょう。

社会学類長 篠塚 友一



目次

筑波大学・社会学類について	
カリキュラム	1
各主専攻の紹介 ● 社会学主専攻	2
● 法学主専攻	4
● 政治学主専攻	6
● 経済学主専攻	8
4主専攻から	10
卒業生の声	12
卒業生の進路	14
「社学生」の生活	16
入学案内	17

筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムなど）があり、その他に生命地球科学研究群、人間総合科学研究群、システム情報工学研究群、ビジネス科学研究群などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

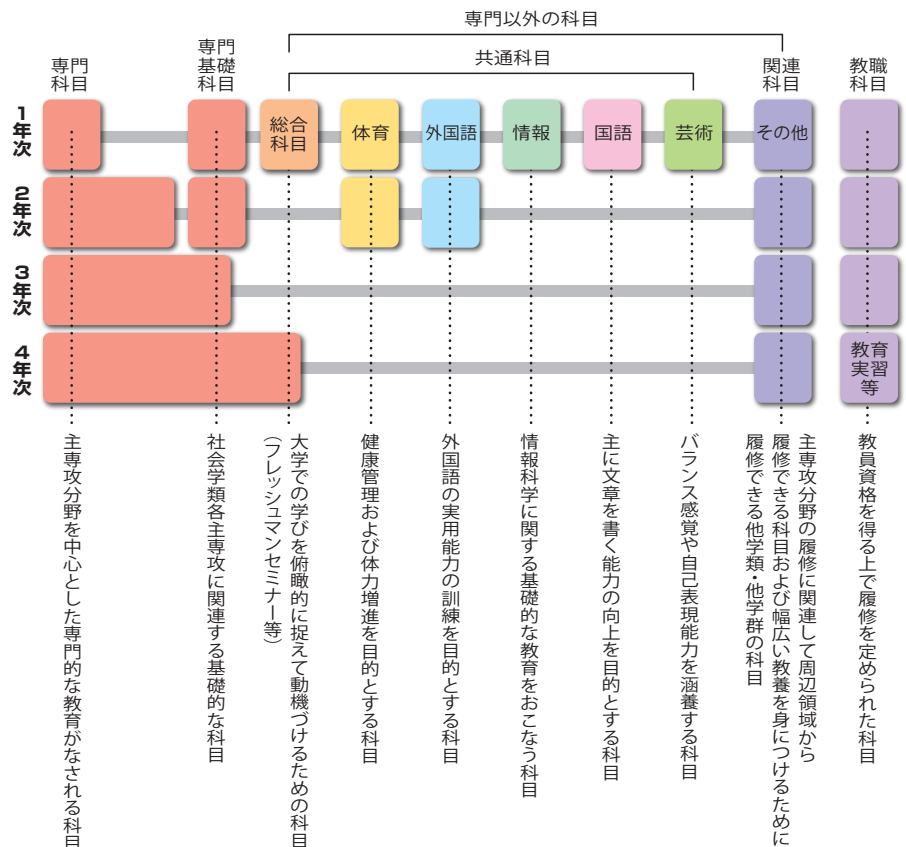
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・逸脱行動・労働・戦争）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学研究および社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目講義



つくば子育て支援総合センター



秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（令和元年度）

- 是枝監督作品から見る、現代の「家族」に対する期待 ●資源管理型漁業をめぐる課題
- 生徒からみた教師-生徒の関係規範に関する社会学的研究 ●鉄道路線の休止と復活を経た地域社会の変化
- 発達障害を抱えて生きる自己の物語論的分析 ●保育現場における「気になる子ども」へのまなざしと実践
- 大河ドラマの誘致活動からみるコンテンツツーリズムとまちづくり ●ワインツーリズムの社会的役割と関連する人びとの相互関連性



いがらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人口移動論】▶「大学の中

に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんて知らないよ！」それはどうかな？「社会」には、たくさんの＜社会＞があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない＜社会＞があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る＜社会＞が待っています。そうそう、大学もひとつの＜社会＞です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな＜社会＞にまみれながら、いくつもの＜社会＞の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらの えいじそん
ウラノ・エジソン

TISS Program:
Social Issues in
Contemporary
Japan, Comparative
Society, Public

Policy, Transnational Social Policy など▶【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなってきています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



おくやま としお
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



かつらやま やすお
葛山 泰史

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

みを特徴付けているのは、さまざまな社会的現象をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



どい たかよし
土井 隆義

「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会的なものへの見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、今まで気づかなかった意外な側面が見えてきます。重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたりすることが分かってきます。授業をとおして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えてください。



のがみ げん
野上 元

「歴史社会学」「社会学演習」「戦争と社会」▶【歴史社会学／メディアと情報化の社会学】▶なぜ社会学

をやろうと高校生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを高見から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をぱさぱさ斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。ただ、今ならそうは考えない。社会は高見から説明できるようなものではないし、つくづくそれは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思う。



ファン スンヒー
黄 順姫

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社会

学】▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマで設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コリアタウン、秋葉原などで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



もり なおと
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会論】▶「学生時代の私は、教育と

格差・不平等の世代間連鎖の問題を考えるとところから社会学の世界に入りました。講義のなかで示される「通説」に納得できない違和感を何とか言葉にして、授業が終わったあとの教壇にいた教師に話した覚えがあります。教師の答えは、「その問題はじつはまだ十分よくわかっていないのですよ、ぜひあなた自身で明らかにしてください」というものでした。不思議な解放感とともに、「これが大学か」という思いを抱いた最初の記憶です。すでに明らかにされていることを鵜呑みにするのではなく、新しい疑問を見出し、答えを模索する。その自由を、学生のみなさんとともに体感していきたいと思います。

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えていきます。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています。また、法科大学院、研究大学院や政策大学院に進学した後、弁護士や国家公務員として活躍している卒業生もいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ抜粋（令和元年度）

- コーポレートガバナンスをめぐる諸問題
- 航空・海上運送人の責任の変遷（対物・対人）
- 政府による中小企業支援の実体
- 民法財産法の判例研究
- 民法の基本問題点の検討
- 信託法の問題点の検討
- 交渉技術の検討と実践
- 模擬裁判
- 刑事訴訟法の基本的問題
- 大学対抗交渉コンペティション（INC）の問題研究



あきやま はじめ
秋山 肇

「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」「比較憲法」「憲法演習Ⅰ」「憲法演習Ⅱ」▶【憲法／国際法／国際政治／平和研究】

▶グローバル化が進む今日において、私たちが抱える問題は、より一層複雑化し、多様な視点から理解・分析・解決策の模索を行う必要があります。社会学類は、問題を多面的に捉え、その解決策を考えたい方にぴったりの学びの場です。例えば、法や憲法が解決できる問題がある一方で、社会学、政治学、経済学など様々な学問領域を駆使することで、法の限界を克服し、より良い解決策を導くことが可能になることもあります。素晴らしい仲間（＝学生、教職員）とともに、国内外の幅広い問題について多角的かつ批判的に議論し、日本の、そして世界の未来を創っていきませんか？
IMAGINE THE FUTURE together!



きやま こうすけ
木山 幸輔

「法哲学」「法哲学演習Ⅰ」「法哲学演習Ⅱ」▶【道徳・政治・法哲学／公共哲学】▶「法学」って、とっ

ても「堅そう」ですね。噛むと歯が折れちゃいそう。だから、柔らかくアプローチしてみるのが良さそうです。本学にはそのきっかけや場所が多くあるはず。大事な柔らかさは、対話の中で、自分の考えを生成・変化させていく、そういう態度です。哲学的に考えてみたり、分野横断的に本や友達、教員と対話したり、サークル、バイト、生活の中で考えていく。そうした中で、「私が考えたいのはこれだ。で、こういう風に考えられるかな（ただし暫定的）」という答えを見つけれられるかもしれません。美味しく咀嚼できたときの喜びは保証します（こんなの食べていていいのかな、と思うかもしれませんが）。皆さんと充実した時間を過ごせますように。



さい ユンチ
蔡 芸琦

「刑法総論」「刑法各論」▶【刑事実体法】▶刑法199条によれば、「人を殺した」者は、殺人罪に

問われます。たとえば、ナイフで人の心臓を刺す行為は、「人を殺す」行為にあたると思われます。では、ある飛行機には時限爆弾が仕込まれていることを知りつつ、その飛行機の搭乗を勧める行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。不注意で車を他人に衝突させ、人に重傷を負わせたにもかかわらず現場から逃走する行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。言葉には、たくさんの解釈の可能性がります。法の解釈の楽しさを実感できる分野の1つが、刑法学です。



ねもと のぶよし
根本 信義

「法学概論」「民事訴訟法A」「裁判実務演習」▶【裁判実務／法教育】▶4年間

はあっという間に過ぎてしまいます。知的好奇心を發揮して、興味をもったことには積極的にトライしてみてください。また、興味あることを見つけるためにも読書は大事です。手始めに新書から読み始めてはどうでしょう。法とはそもそも何なのかを知りたい人には、橋爪大三郎「人間にとって法と何か」（PHP新書）や木村草太「キヨミズ准教授の法学入門」（星海社新書）を、社会科学の新しい方法論に触れたい人には、亀田達也「モラルの起源」（岩波新書）を、相手を言い負かす議論に疑問を持った人には、苦野一徳「はじめての哲学的思考」（ちくまプリマー新書）を勧めます。興味をもったら、さらに専門書へとステップアップしてください。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法Ⅰ（総則・商行為）」「会社法Ⅰ」「会社法Ⅱ」「金融商品取引法Ⅰ」「金融商品取引法Ⅱ」「有価

証券法基礎」「電子記録債権法」▶【運送法（海上・航空）／有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの方の見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



みやさか わたる
宮坂 渉

「民法総則」「西洋法制史」▶【民法／ローマ法／西洋法制史】▶法学って何

だろう？法学は法律家、公務員になるためだけの勉強？なぜ法曹や公務員になるために法を学ぶ？それは彼らが法を使って仕事をするから。なぜ法を使う必要がある？法には強制力があるから。法に従わなければ、罰や不利益を受けることになる。なぜ法には強制力がある？法は「追い詰められた最後の一人」を守るためにあるから（木庭顕『誰のために法は生まれた』朝日出版社、2018年）。虐待を受けている子供たち、冤罪事件の被告人、この社会には誰からも見放されている人がいる。そんなたったひとりを救うために、法は、他の全ての人々を法に従わせる、大きな力を持っている。でも、その大きな力が上手く使えなかったり、間違っって使われたら？だから法曹や公務員は法の正しい使い方を学ぶ必要がある。法学では法の正しい使い方を考える。ここには正解はない。でも、正解がない問題を考えるのが本当の学問だし、そういう学問ができるのが大学だと思う。



もりた ちほこ
守田 智保子

「刑事訴訟法」「刑事政策」「Global Society and Criminology」▶【刑事訴訟法／証

拠法】▶法を学ぶことは、将来、司法試験の受験を目指す人、専門的な職業に就く人にとってのみ必要なのではありません。私たちは、日常生活で法的問題と無関係ではられません。問題を生じさせないためにも解決するためにも法律が必要です。しかし、法律は、存在するだけで困った者を助ける魔法のアイテムではありません。これを人がどのように理解し扱うのか、が重要です。その人の立場だけでなく、時代や文化によってもその答えは変化し、唯一の正解はないでしょう。悪戦苦闘しながら自分の答えを見つける作業のなかで身につけた力は、大学卒業後にどんな道に進んでも、大切な唯一無二のアイテムになるはずです。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないので。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（令和元年度）

- 現代民主主義とポピュリズム ●日本のとるべき軍事政策と憲法9条の考察 ●池田政権期における自民党派閥の形成過程
- 海外起業家「和僑」の実態とその発展の要因 ●人道的介入と「保護する責任」 ●現代日本における内閣支持率の規定要因
- 無人兵器の誕生と戦争観の変容 ●自由民主主義体制での同性愛の法制度の違いの要因は何か
- アメリカにおけるシンクタンクの利益団体化



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」
「国際政治経済学」▶
【移民・難民研究／ア
ジア地域の国際人口
移動に関する政策分

析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかに見える現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻繁に語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょう。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない

日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



せき かつのり
関 能徳

「Democratization」
「International
Social Studies II」
「Japanese Politics」
「Quantitative

Methods for Social Sciences」（社会国際学教育プログラム）▶比較政治学／計量政治学／民主化・独裁制／選挙アカウンタビリティ▶政治学者とは一体何者でしょうか。経済学者が企業の社長でないように、政治学者は政治家ではありません（稀に政治家に転身する人もいますが）。政治学者が担う大きな仕事のひとつは、政治現象に関する既存の説明を批判的に評価した上で、まだ答えの出ていない問いを発見し、それに答えることで新たな知識を生産することです。政治学を専攻する学群生は、抽象的なものの考え方を発達させることを通して、知識のよりよい消費者になることが期待されます。とはいえ、ただの消費者でいるのはあまり面白くありません。知識の生産者の側に加われたら、どれだけ気分爽快でしょうか。そのためには、常日頃「なぜ」と問い続けることです。凡庸な問いかもしれないと恐れることなく、「なぜ」と問い、答えを探し続ける4年間を過ごしてみてください。その過程で、世界の誰もまだ知らなかった答えに辿り着けるかもしれません。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交」▶【政治学・日本政治論（イデオロギーと政治意識、投票

行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史）】▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



ちえ じょうん
崔 宰栄

「計量分析入門」▶
【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に

取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



まつおか ひろし
松岡 完

「アメリカ外交史」「アメリカ外交史概説」▶
【ケネディの外交／冷戦史／ベトナム戦争史】▶受験勉強中の

みなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは？でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の国際政治史、とくにアメリカ外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきましょう。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際安全保障論」▶【国際政治理論／国際安全保障／グローバル化と国際紛争】▶「1人を殺

せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



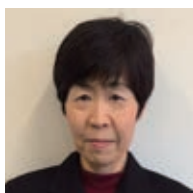
講義風景



横浜国立大学と合同演習後の集合写真

卒業論文タイトル抜粋（令和元年度）

- グローバル化における中小企業経営の課題と打開策
- 貧困政策における国の制度の重要性
- 日本文化産業の海外進出
- ゲーム理論におけるジェンダー研究に関するサーベイ
- 企業規模と価格交渉スキルに関するゲーム理論分析
- 社会的共通資本の『共有地の悲劇』の可能性と経済成長
- スポーツチーム強化戦略とリーグ内競争バランス
- エージェント間の心理的ゲームを伴う契約理論の研究
- プロ野球の守備側チームの失点を防ぐ戦術に関する『部分ゲーム完全均衡』の検証
- An analysis of sequential three-stage contests with multi prizes schemes



いけふじ まさこ
生藤 昌子

TISS Program:
Principles of
Economics,
Mathematical
Economics,

Economic Growth ▶ **【マクロ経済学／環境経済学】** ▶ 経済学の原理の一つにトレードオフがあります。何かを得るために諦めなければならないものがある、ということです。何かを諦めてでも経済学の勉強を選択した判断と今という時間を大切にしてください。なぜなら経済学を学ぶことで社会現象を見るときや、今後の様々な場面での判断に重要な視点を示してくれるからです。そして、大学生活で多くの人に出会うことで自分自身を磨いていってください。



しのつか ともいち
篠塚 友一

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「産業組織論」▶ **【ミクロ経済学／社会的選択理論／厚生経済学】**

▶ 某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



たかはし ひでなお
高橋 秀直

「現代経済史」「経済学入門演習II」▶ **【経済史／金融史】**

▶ 知識は断片的な情報を相互に関連付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



なか しげと
仲 重人

「公共経済学」▶ **【公共選択論／公共経済学】** ▶ 人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡を

とおしてこの世界を見えています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



ひらさわ てるお
平沢 照雄

「地域経済論」「日本経済史」「日本経済論」「経済学演習V」▶ **【現代日本経済史／地域経済・産業論／中小企業論】**

▶ 社会学類は、グローバルとローカルの双方の視点を兼ね備えた学生の育成を重視しています。21世紀に入り、グローバル化が至上命題のように言われてきましたが、コロナ危機に直面するなかで、改めて地域経済の重要性に注目が集まるようになりました。現代社会では、グローバル化が進めば進むほどローカルな問題の解決も同時に課題となっています。社会学類で幅広く学ぶなかで、グローバル（＝グローバル＋ローカル）な視点を身につけ活躍してくれる意欲的な学生に出会えることを期待しています。



ひらやま あさじ
平山 朝治

「経済思想史」「経済学演習VI」▶ **【経済思想／経済システム・文化・思想の進化と持続／日本社会】**

▶ 大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持てあましたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「基礎経済学」▶ **【ゲーム理論／進化ゲーム理論】**

▶ 経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。

これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



みのわ まり
箕輪 真理

「開発経済学」「経済学演習X」▶ **【開発経済学／ラテンアメリカの経済／開発政策／社会開発】**

▶ 世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどう過ごすか、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえたら幸いです。

4主専攻から

社会学主専攻 × 渡邊 ほのか

みなさんは大学で何を学びたいですか？私は高校生のとき、特筆できるほど学びたいものはありませんでした。ただ、「社会で起きていることを知りたい」と漠然と考えていました。法や政治・経済のどれかだけに限定された興味があったのではなく、社会というものの存在の分からなさに、知的好奇心をそそられていたのだと思います。そんなときに社会学を知り、社会学を学びに筑波へ来ました。

社会学では、特定の学問の網ではすくいきれない「隙間」に焦点を当て、そこにこそ「社会問題」があると考えます。だからこそ、みなさんが社会の中で何か問題だと思えることがあれば、それを社会学として取り上げることが出来ます。ジェンダー、ひきこもり、ファッション、テレビドラマと、一見学問に出来なさそうなものでも研究することが出来てしまうところに、私も魅力を感じました。そのようなある側面から人間の間接を見ることで、社会の仕組みが見えてくるような、そんな学問が社会学です。

筑波で社会学をすることの魅力は、知識を得ることができる範囲が幅広いことです。疑問を持つには、まずは幅広い知識を身に付けて、多角的な視点を得ることが必要不可欠です。筑波大学では、他の学類の授業を履修することが出来ます。私は教育社会学に興味を持っていますが、教育学類や心理学類の講義で身に付けた知識が参考になっています。

社会学類の講義だけでなくさまざまな学問の講義も受けて幅広く「学」び、そこで得た幅広い視野の中から自ら「問」いを考えて研究することが出来るのは、筑波の社会学ならではの魅力だと思います。豊富な知識を身に付けて、その中から自ら疑問を見つけてそれを解き明かす面白さを、ここ筑波大学の社会学類で味わってみませんか。



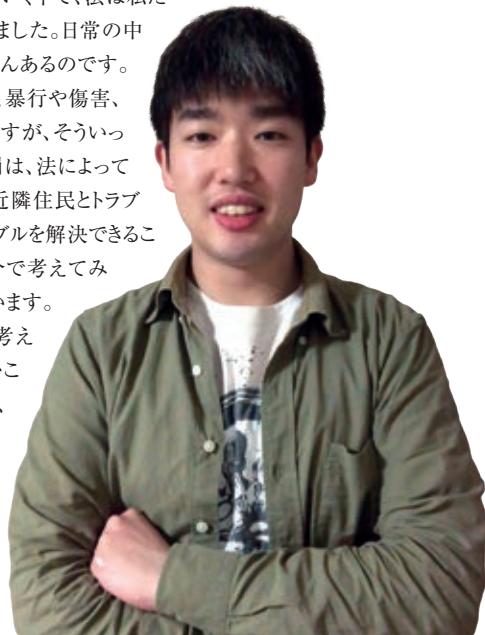
法学主専攻 × 園田 瑞樹

皆さん、「法学」と聞くと、どのような学問だと想像するでしょうか。法律をひたすら暗記するのだろうか、馴染みがなく小難しそうだなとか、人によって印象は様々だと思います。実は、このように皆さんに問いかけている私自身も、入学当初は、法学と言われてもどのようなことを学ぶのか、あまり想像ができていませんでした。社会学類は、社会学、政治学、法学、経済学の4主専攻に分かれていますが、入学当初はどの主専攻に進むかまだ迷っていたほどです。

私が法学に興味を持ち、法学主専攻に進もうと決めたのは、法に関する様々な考え方や、法の論理的な解釈が、おもしろいと感じたからです。私は、法学とは、法の解釈論であると考えています。その解釈の中で、論ずる人によって様々な考え方が出てきます。この考え方は自分と同じだな、納得できるな、と考えることもあれば、その考え方には賛同できない、ということもあります。中には、自分では思いつかないような考え方もあり、そのような考え方に触れることで、自分の見方を広げることもできます。そして、そうした様々な考え方や、論理的に一貫した解釈を論じていきます。このような解釈の過程に、私は興味を惹かれました。

また、私は、法学を学習していく中で、法は私たちの身近にあるものだと感じました。日常の中にも、法に接する機会はたくさんあるのです。例えば、ニュースを見ていると、暴行や傷害、殺人などがよく取り上げられますが、そういった罪や、犯罪者に対する刑罰は、法によって定められています。また、もし近隣住民とトラブルになったとき、法によってトラブルを解決できることもあります。解決方法を自分で考えてみることも、できるようになると思います。

このように法学は、様々な考え方や、論理的な解釈を楽しむことができ、自分で実際に考え、使う楽しさを味わうこともできる学問です。皆さんもぜひ、私たちに身近な法を、学んでみませんか。



活躍する学生【森賀遼太】

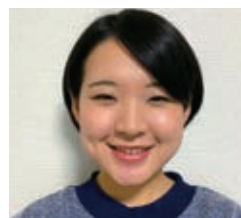
人生は取材の連続である。恩師が常々話していた言葉です。誰かの話を聞いて、自分なりの切り口で理解し、また誰かに話を伝える。記者だけでなく、全ての人がこの「取材」のサイクルを、社会を生きるなかで繰り返しているというのです。

私は筑波大学新聞で副編集長として、記事の取材・編集に携わりました。筑波大とつくば市についてなら何でも取材しました。学内だけでなく、つくば市役所や警察署、更には日本を飛び出てオランダにも足を延ばしました。

取材では、社会、法、政治、経済を全て学べる社会学類で得た知識が役に立ちました。LGBTなどの先進国オランダを取材するにはジェンダー論などの社会学を、警察取材では刑法、刑事訴訟法を理解せねばなりません。学生の選挙行動を取材するには政治学、町おこしなどを記事にするためには地方経済の知識が必要でした。

こうした幅広い知識は多様な社会を生きるために、誰にとっても必要です。更にコロナ禍でさまざまな社会問題が浮き彫りになっています。つまり、皆さんが社会を「取材」するためには、いろいろな角度の切り口が求められます。

社会学類はそんな多様な切り口を教えてくれる、社会を生きるプロを目指す場所です。



活躍する学生【黒澤美玖】

幅広い学びが開かれ、自由に活動することができる筑波の社会学類は、大学生活を送るうえでとても恵まれた環境です。

大学での学びに多角的な視点は欠かせません。私が法学主専攻で扱う法律は、人々が社会生活の中で生み出し、活用しているものです。実際に法を運用して生じる問題について考えると、それは社会の問題と切り離すことができません。だからこそ、社会学で社会科学を体系的に学ぶことで、よりリアルで本質的な法律を知ることができます。

また、幅広く得た知識を活かして、自由に活動することも筑波の社会学の良さです。私は昨年、INCという大学対抗のコンペティションに、筑波の有志メンバーでチームを組んで参加しました。この大会では法的な主張を繰り広げたり、国際的なビジネスにおける交渉力を競います。大会に向けた準備にはとても苦労しましたが、さまざまな分野の先生方のご協力を仰ぎ指導を受けたり、メンバーで相談して東京の大学と練習試合をしたら行ったりと、充実した日々を過ごし、かけがえのない経験をすることができました。

他にも、多くの社会学学生が多様な活動に励んでいます。ぜひ筑波の社会学で知識を広げ、新しいことに挑戦してみてください。

政治学主専攻 × 小南 千紘

私は、大学で勉強することが具体的にイメージできなかったため、入学時に専攻を絞らなくて良い社会学類を選択しました。1、2年次は社・法・政・経の専攻の科目を満遍なく勉強しながら、自分の適性や興味の方向性を検討することができます。政治学は、社会の中の軋轢をできる限り少なくする手段について取り組む分野の学問です。すなわち、そこに人と人がいれば「政治」は存在すると言えます。異なる人がいれば、そこには当然価値観や意見の違いが生じ、対立と結びついていくからです。私は1年生の時は社会学を主専攻にしようと考えていました。しかし、授業を受けたり同級生と進路の話をするうちに、自分の関心のある分野が政治学の方面に移っていることに気づき、2年生の途中で政治学主専攻に進むための履修計画に切り替えました。ですが、社会学をはじめとする他専攻の分野を勉強していた経験は、政治学を専攻する上で大いに役立ちました。私が学生時代に研究したアメリカの差別是正政策においては、社会学的知見から「政策が導入された背景となる社会階層の分析」を、法学的知見から「政策に関連した訴訟・判例の調査」を、経済学的知見から「政策の経済的意義の検討」を行うといった様に、他専攻での授業を受けた経験が活かしていました。卒業後はシステムエンジニアとしてプログラムの開発やテストに従事することになっています。そこでも、解決すべき課題に向け様々な論理的アプローチを考える能力はきっと役に立つことでしょう。幅広く学べる当学の社会学類で政治学を学ぶことは、大学での研究活動だけでなく、社会に出ても役立ち「多角的に物事を考える力」を養うことができます。皆さんもぜひ政治学主専攻に足を踏み入れてみてください。



経済学主専攻 × 信夫 咲希

皆さんにとっての経済学とはなんですか？
おもしろいことに十分に便利な世の中にいるにも関わらず、世界経済は成長し続けていますよね。そして成長し続ける経済の中には数えきれないほどの「経済学」の世界が広がっています。そうです！ 経済学は「無限の可能性」を秘めた学び甲斐のある学問です。
私はビジネスを始めることに興味があり、経済学主専攻を選びました。街を歩きながら、どこにマーケットがあるのか、この店が利益を出すにはどのくらいの売上が必要なのか、とよく考えを巡らせます。そうした時に、経済学を通じて学んだ考え方や理論がとてもしきています。
さらにビジネスだけでなく、日常のあらゆる場面に対応させた形で、経済学で学んだ見方・考え方を応用できるのも魅力です。それは社会全体を考える時だけでなく、小さい物事にさえ用いることができます。
しかし、無限の可能性を持って成長し続ける経済といえども、多くの壁が存在します。それは法律による規制や多種多様な社会形態の存在です。これらを知り理解しないことには経済学の幅を狭めてしまうことになります。
こうしたことから社会学類では、経済学以外にも法学・政治学・社会学を学ぶことができ、さらには他学類の授業も受講することができます。経済学以外の授業でも学びながら、多様な見方・考え方に接することで、経済学での学びをより深くして幅広いものにすることができます。
社会学類には皆さんの「やりたい」を叶えてくれる広くて多様なフィールドがあります。そんな社会学類で一緒に学んでみませんか？ 皆さんが社会学類に入学されるのを心より楽しみにしています。



海外留学の勧め【北原太一】

大学一年生時、香港の雨傘運動に関する講演への参加と、旅行をきっかけに香港について非常に興味をもち、2019年夏から香港中文大学へ交換留学することを決意しました。筑波大学の充実した留学支援によりビザ関係の申請等の複雑な手続きもスムーズに行うことができました。しかし渡航を



目前に大規模な民主化デモが発生し、一時は留学取り消しの可能性がありましたが、なんとか留学することができました。デモによって授業がボイコットされたり、外出が制限されたりしたものの、授業や課外活動は非常に充実しており、また友人にも恵まれました。現地生活にも慣れてきた11月中旬、大学構内でのデモが激化し、強制帰国となり、催涙ガスが飛び交う中、大学を脱出し、日本へ戻りました。突然留学が中断してしまったのは非常に残念ではありましたが、歴史の転換点にいられたことは貴重な経験であり、またたくましく生きていく術を身につけることができました。私の話を知って、「海外って怖いな」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、確かに海外での生活にトラブルやストレスは付き物ですが、しかしそうした困難を乗り越えることで人は成長できると私はこの留学を通して学びました。

編入学の勧め【小坂慎太郎】

筑波大学の社会学類には編入学制度が存在します。これは他大学で取得した単位をそのまま引き継ぎながら、社会学類の3年生として入学できる制度です。編入学制度が存在する大学は数多くありますが、筑波大学以上にあらゆる分野を学際的に学べる大学はないと思います。



私は前大学でも、文理問わず幅広く学べる学部在籍でしたが、あくまでも学部枠の中での学びでした。一方、社会学類では社会学、政治学、法学、経済学の4専攻に加え、教育、情報、体育、芸術、社会学など、全学群の授業を自由に履修できます。VUCAの時代において、今後の社会を担う私達に求められているのは、各学問を深く多角的に探求し、その上で枠組みに囚われずに知識を繋ぎ合わせ、新たな答えを導き出す力だと思います。そして私は現在社会学類で、この能力を身に付けられていると強く実感しています。

また、社会学類の授業の多くはディスカッションやグループワークを通じて行われます。そのため、編入学生であってもすぐに多様な友人の輪を広げることができるのも魅力です。

皆さんも社会学類で様々な学問を多様な友人と共に学び、社会で活躍する力を身につけませんか。

社会学主専攻卒



東京家庭裁判所
(筑波大学大学院
国際公共政策専攻修了)

千葉 裕平

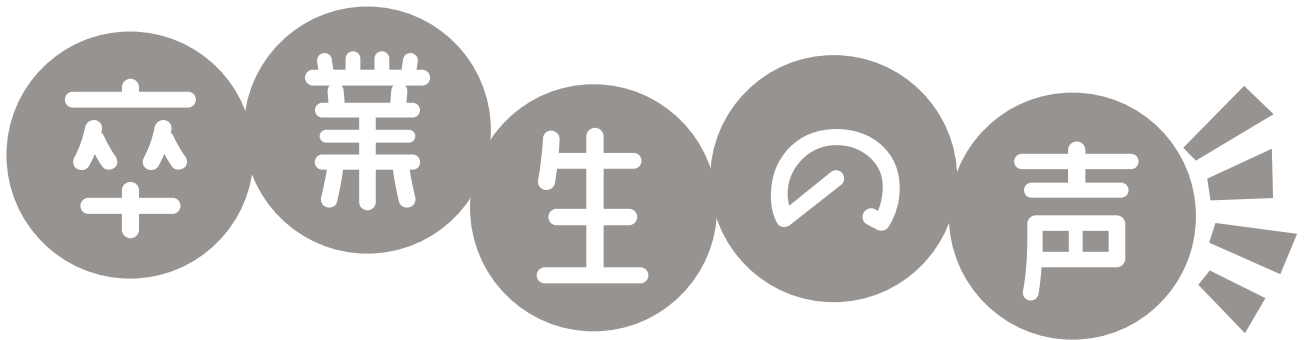
社会学という学問を一言で説明するのは、実は少し難しいです。ただ、私は、その重要な役割の1つは「他者の合理性の提示」——何らかの社会現象に関わる人々（LGBT、ひきこもり、移民、日雇い労働者…）や彼／彼女らの世界を、なんとか「わかる」形で記述・提示すること——だと思っています（岸政彦ほか『質的社会調査の方法』）。

では、どんな社会現象に注目すればいいのでしょうか？ 卒論執筆時の私は、「児童養護施設の子どもの学習支援」に注目しました。私自身がサークルを通して学習支援のボランティアをする中で、学習支援をめぐるボランティアと施設職員との「ズレ」を感じたのが

きっかけです。このように、私たちにとって「空気」になっていた日常への注目が、社会学的研究の入口になることもあります。

ところで、私はさらに2年間大学院で研究し、修了してからは、「家庭裁判所調査官補」（調査官補＝調査官見習い）として裁判所に勤務しています。一般に、調査官の役割は、社会学を含む「行動科学」の知見を生かして、少年犯罪や離婚・親権等の家庭の紛争を司法的に解決するための調査を行うことです。調査官を志したのは、困難を抱える人々やその支援に強い関心があったからです（上記ボランティア経験の影響です）。今は研修中の身で、まだ実務を把握しきれてはいませんが、社会学は、少年や当事者（の世界）を理解するのに役立つでしょう。

私は、筑波大学の社会学類への入学、そして、大学院への進学という選択に後悔はありません。思うに、選択に後悔するか否かは、かなり選択後の生活状況に依存します。皆さんの進路選択が後悔のないものになることを心から祈ります。



政治学主専攻卒



株式会社ビズリーチ
ビズリーチ事業部
広域統括部 名古屋オフィス

上野 由佳

政治学に興味を持ったのは小学生の頃、連日テレビが映し出す「郵政民営化」について自分で調べてみたことがきっかけでした。テレビの中で起こっている、自分とは全く関係ない世界で政治を動かしているのも、結局は選挙で選ばれた「人」なのだと気付いた時、政治を学ぶことで世の中をもっとよく出来るのではないかと考えるようになりました。

その後、筑波大学に進学する決め手となったのは、「政治は様々な分野に関わっているからこそ、自分の知見も広げてみたい」と考えたからでした。総合科目をはじめ、政治学以外の分野の授業も受

講しやすく、サークルなどを通じて他学類の友人から学ぶことも出来る大学で学べたことは、私の財産になりました。

政治学を専攻してからは特に地方政治や選挙制度に興味をもつようになり、県議会議員や国会議員のもとでインターンシップの経験を積ませてもらったり、若年投票率をあげるための啓蒙活動を行いました。授業や先生から学んだ内容が実際の政治の現場ではどのように起こっているのか、一次情報を取りに行き、それを人々に伝えることができたのはとてもいい経験になりました。

就活の際に、社会課題の解決に取り組む会社を選んだのも、こうした経験から仲間とともに少しずつ世の中を変えて行くことに喜びを覚えたからでした。現在、私は企業の「採用課題」に向き合う仕事をしていますが、様々なソースから情報を集め、目の前の課題を解決するという大学時代の経験が仕事に生きていて感じています。皆さんも是非、大学という環境を精一杯使って自分の好きな分野を突き詰めてみてください。



酒井法律事務所
弁護士

伊藤 力也

「法学」は、民法や刑法という具体的な法令のみだけでなく、一般的な言葉で言う「ルール」全般に関する学問を指します。例えば、皆さんが（鬱陶しいと感じていたかもしれない）校則も「ルール」であり、「法学」と日常生活は遠いようで近い存在です。

しかし、なぜ「ルール」に従うのでしょうか、そもそも「ルール」は必要なのでしょうか、その「ルール」には従う必要があるのでしょうか。漠然とそんな疑問を持ったことはありませんか。

特定の法的知識のみならず、「ルール」の根源の知識・知恵を修得できることが「法学」の醍醐味です。

学生であるからといっても、「ルール」に対しては自分自身の問題として常に気を配る必要があります。他方で、学生の時だからこそ、俗に言う「社会人」とは一線を画して、じっくりと「ルール」を洞察することができます。

「法学」の学修は長く険しいものですが、辛抱強く取り組むことで、きっと現実社会での「数」や「地位」の「暴力」に疑問を持ち、それに対抗する力を感じ取ることができるはずです。

社会学類への入学を検討している方の中には、4分野に触れた後で主専攻を選択できるという特徴に惹かれている方も多いと思います。社会科学全般に触れることができるという特徴を大いに活用して、現実社会を「広く」かつ「深い」視点から眺めてみてください。

弁護士としての自分の中枢は、社会学類（法学主専攻）に所属し、そこで先生方や仲間と一緒に大学生活を過ごしたことにより形作られたものだとの自負があります。どんな専攻であれ、社会学類での時間を十分に活かすことができれば、きっと「社会学」での大学生活は、卒業後もあなたを彩ってくれるでしょう。

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、 どんな学生生活を送っていたのか？ 今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

経済学主専攻卒



住友商事株式会社
佐藤 昌哉

現在、私は総合商社の一角である住友商事に勤めています。経済学で学んだ「複雑な事象をモデル化し、シンプルかつ理論的に説明する」ということをビジネスの現場でも活かしながら、自身が扱う世界中の案件に向き合っているところです。

私が社会学類に足を踏み入れたきっかけは、受験時代にずっと抱いていた「数学を役に立てたい」という想いからでした。入学後は、経済学が“社会で起きている事象”をモデル化し、シンプルかつ理論的に説明するための学問であることに興味を持ち、経済学主専攻に進みました。

入学当初の推測通り、ゼミなどの課題に取り組むうえで、分析ツールとして数学を使う際には高校までの知識が役に立ちました。

その一方で、様々な社会問題について、幅広く知ったり、考えたりする必要があると思っていました。社会学類では社会学、政治学、法学と専攻が異なる多くの学生と共に楽しく学べることも、“社会で起きている事象”を幅広く学ぶ点で大きなメリットがあります。

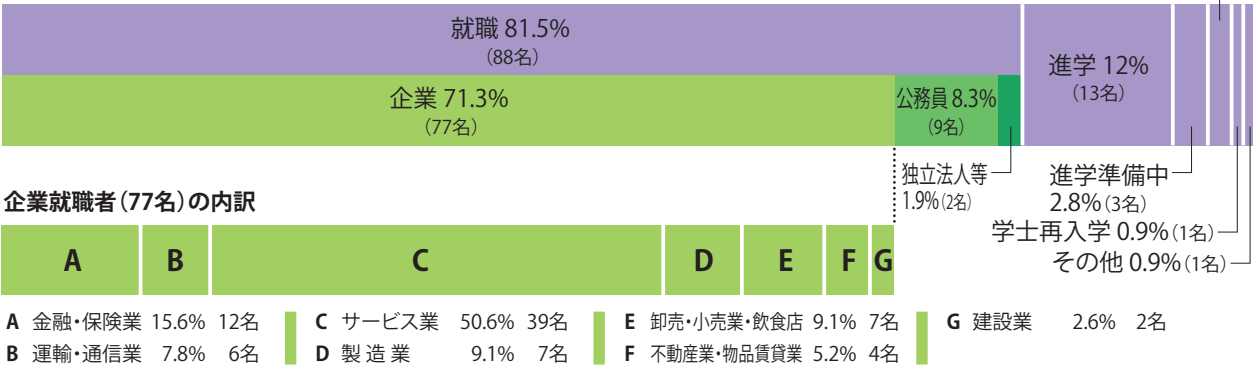
事実、私の場合、経済学を学ぶ一方で、同時に法学の授業では模擬裁判を経験し、政治学主専攻の友人の一声から政治家のインターンに参加するなどの経験を積むことができ、その結果、現代社会についてより深く理解することができました。ここに社会学類の大きな魅力と強みがあると思います。

最後となりますが、私は筑波大学社会学類に進学して本当に良かったと思っています。学問はもちろんのこと、課外活動で取り組んだ男子アイスホッケー部での活動や、バイト仲間で夜遅くまで将来について語り合った時間は、かけがえのない青春です。皆さんが、私が経験した以上に素晴らしい日々を社会学類で過ごされることを期待しています。

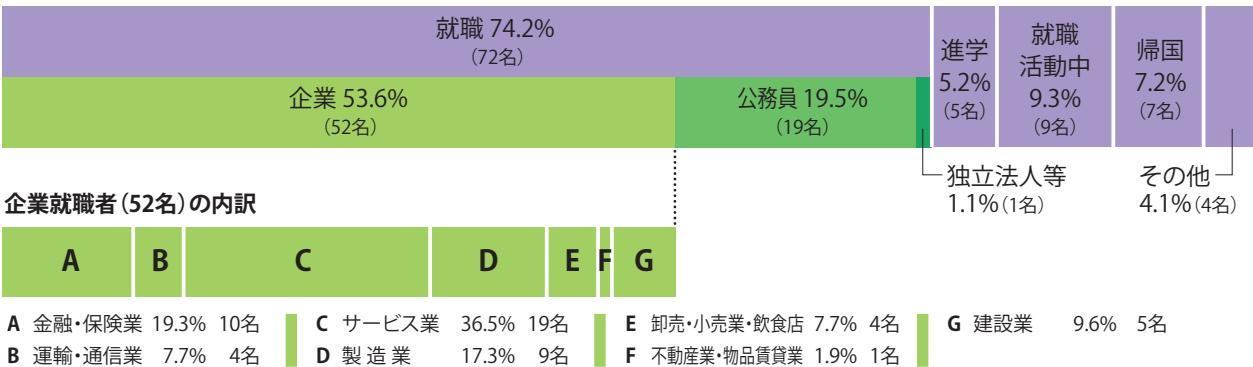
卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融、メディア・情報通信、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多くいます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者もあり、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

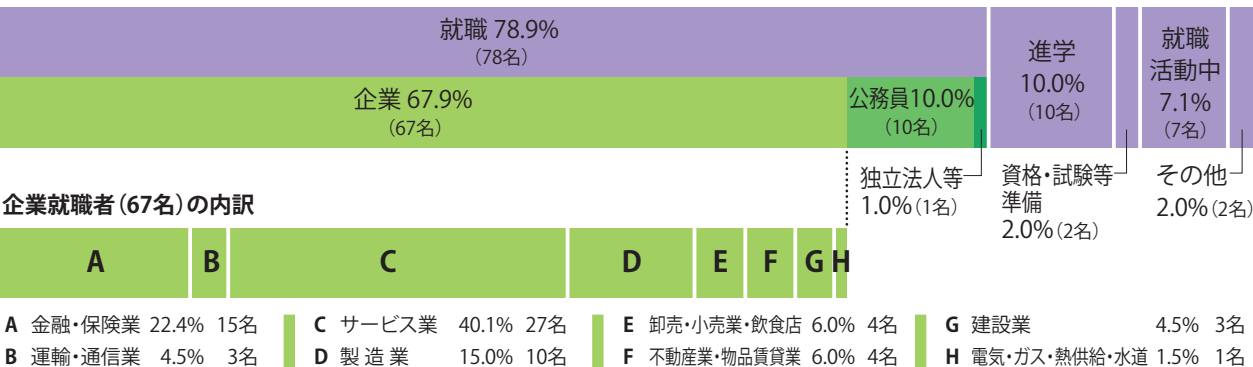
令和1年度 【卒業生 108名 (Global 30 Program 6名含む)】



平成30年度 【卒業生 97名 (Global 30 Program 8名含む)】



平成29年度 【卒業生 99名】



最近の主な就職・進学先（平成26～令和1年度）

銀行・信託業

三井住友銀行
みずほ銀行
ゆうちょ銀行
りそな銀行
常陽銀行
静岡銀行
山口銀行
阿波銀行
秋田銀行
ジャパンネット銀行
三菱UFJ 信託銀行
みずほフィナンシャルグループ
ジェシービー
りそなグループ
商工組合中央金庫 など

保険・証券業

第一生命保険
日本生命保険
住友生命保険
明治安田生命保険
ソニー生命保険
アフラック生命保険
オリックス生命保険
東京海上日動火災保険
損害保険ジャパン日本興亜
AIG 損害保険
野村證券
みずほ証券 など

新聞・放送業・出版業

朝日新聞
読売新聞
日本経済新聞
毎日新聞
西日本新聞
産業経済新聞
北日本新聞
日本放送協会 (NHK)
福岡放送 など

宿泊・生活関連サービス・ 娯楽業

東映
星野リゾート
キョードー東北
ニューオータニ
ホテルオークラ東京 など

製造・電力業

日立製作所
ソニー
三菱電機
三菱重工業
富士重工業
スズキ
SUBARU
ヤマハ
日立メディカルコンピュータ
日立ハイテクノロジーズ
東洋製罐
日本ハム
丸美屋食品
デサント
テルモ
日立金属
住友金属鉱山
九州電力
北陸電力 など

運輸・同サービス業

日本航空
全日空
エイチ・アイ・エス
JTB
東日本高速道路
東日本旅客鉄道 (JR 東日本)
など

住宅・建設業・不動産業

鹿島建設
三井ホーム
積水ハウス
大東建託
ポラス
JPハイテック
日比谷総合設備
東急不動産
フージャースコーポレーション
東京建物
森ビル
コスモスイニシア
ホンダ開発 など

調査・コンサルティング・ 広告代理店

アクセンチュア
野村総合研究所
富士通総研
博報堂
電通テック
船井総合研究所
キャップジェミニ
ジェイエイシーリクルートメント
富士経済
アビームコンサルティング
NTT データ・フィナンシャル・
ソリューション など

商社・小売業

住友商事
丸紅
三菱商事パッケージング
三菱商事マシナリ
日新商事
日立金属商事
JX 金属商事
イオンリテール
協栄産業
ローソン
ニトリ
昭和シェル石油 など

国家公務員

総務省
経済産業省
国土交通省
農林水産省
防衛装備庁
警察庁
厚生労働省
人事院
さいたま地方裁判所
東京高裁管轄裁判所
長野地方裁判所
国立国会図書館 など

情報・通信業

KDDI
ソフトバンク
日立ソリューションズ
NTT データ アイ
第一生命情報システム など

地方公務員

●都道府県庁

東京／茨城／埼玉／静岡／
群馬／埼玉／千葉／大阪 など

●市役所

名古屋／横浜／さいたま／
つくば／千葉／川口／川崎
など

●警察本部

警視庁／茨城 など

教育研究機関・

独立行政法人・教育サービス

千葉大学
宇都宮大学
高エネルギー加速器研究機構
海洋研究開発機構
科学技術振興機構
国立印刷局
高齢・障害・求職者
雇用支援機構
日本司法支援センター
早稲田アカデミー
学研エデュケーショナル など

業界団体等

日本自動車連盟
日本医師会 など

進学（大学院）

筑波大学
東京大学
東北大学
一橋大学
京都大学
九州大学
大阪大学
神戸大学
名古屋大学
早稲田大学
慶應義塾大学
ハワイ大学 など



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪問した時のものです。



フレッシュマン・セミナーで、サイバーダイナスタジオに出かけ、世界初のサイボグ型ロボット「ロボットスーツHAL.AN」を体験した時のひとコマです。

「社学生」の

生活

Campus Life

主に社会学類生で構成されるサークルの桐政会では、社会・政治問題を熱く議論します。



社会学OB/OG等を招いて毎年実施している就活相談会です。社会で活躍する先輩から貴重な意見を気軽に聴けるイベントで熱気があります。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

新入生が入学後スムーズに社会学類になじめるように、新歓イベントや先生との立食会が楽しくにぎやかに開催されます。期待してください！

社会調査実習で福島の水族館へ出かけて放射線測定イベントに参加しました。キャンパスを飛び出して行う学類の実習や工場見学は楽しいですよ！



入学案内

入学定員 1 学年 80 名／編入 10 名

1 推薦入試

募集人員 16 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 小論文および面接

2 一般選抜

募集人員 前期 40 名
試験時期 大学入学共通テスト …………… 1 月中旬
個別学力検査 …… **前期** 2 月下旬

▼ 個別学力検査（学類・学群選抜）の試験科目

前期

- 外国語（英）
- 数学（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ）、国語（現代文Ⅰ・古典Ⅰ）、
地理歴史（世界史Ⅰ・日本史Ⅰ・地理Ⅰから1科目を選択）の中から1教科を事前選択
- 調査書（感染症流行の状況を鑑み、2021年度入試では選考に用いない）

※総合選抜（募集人員20名）、留学生特別プログラム入試（募集人員4名）については
大学アドミッションセンターのHPに記載。

3 編入学試験

募集人員 10 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接

問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年 9 月下旬です。

※詳細は以下の URL まで

<http://www.tsukuba.ac.jp/general/index.html>
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

注意) 以上は、2020年6月現在の情報です。感染症流行の状況により変更が生じる可能性があります。
今後の変更については、筑波大学のHP上などで公表いたしますので、必ずご確認ください。



筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2020年6月30日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員 学類長：篠塚 友一
社会学類広報委員：守田 智保子（委員長）、明石 純一、平沢 照雄、野上 元

企画・編集 社会学類広報委員会

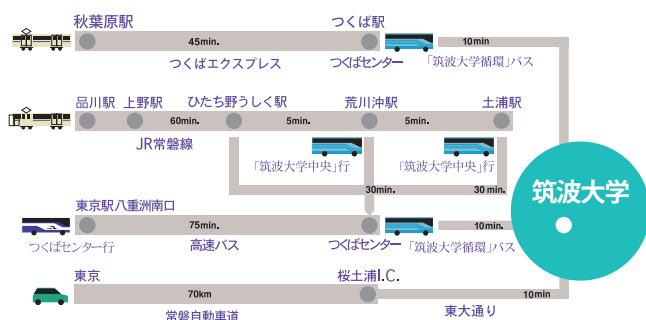
デザイン 松澤 康行

写真 小沼 渉

発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社いなもと印刷

社会学類への招待



筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
- 「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス (10分) または
- 「筑波大学循環 (右回り) (左回り)」バス (10-15分) 「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス (約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス (約65分)
- 「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス (10分) または
- 「筑波大学循環 (右回り) (左回り)」バス (10-15分) 「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 「ひたち野うしく駅」東口バスターミナルから
- 「筑波大学中央」行きバス (40-50分) 「第一エリア前」下車
- 「荒川沖駅」西口バスターミナルから
- 「筑波大学中央」行きバス (30-40分) 「第一エリア前」下車
- 「土浦駅」西口バスターミナルから
- 「筑波大学中央」行きバス (35-40分) 「第一エリア前」下車